

下妻から熊本支援 保健師を派遣

4月14日に発生した熊本地震の支援に向けて、下妻市保健センターの池田早輝保健師が茨城県保健師派遣チームの第1陣として4月22日～27日の6日間(実働4日間)、熊本県菊池郡大津町に派遣されました。今回は、被災地支援での体験や学びについて伺いました。



避難所で血圧を測定する池田保健師(4月24日、大津町の老人福祉センターで)

の健康確認のために血圧測定や健康相談を担当し、感染症予防のためにトイレ・部屋の消毒、体の不自由な方のトイレ介助、高齢者が筋力を低下させないように体操を行いました。また、避難所に日中残っている高齢者には状態が変わっていないか、毎日声かけを行いました。

Q1:被災地ではどのような活動をしていましたか――

池田:大津町に19カ所あった避難所の一つである「老人福祉センター」に配属され、避難者

の健康確認のために血圧測定や健康相談を担当し、感染症予防のためにトイレ・部屋の消毒、体の不自由な方のトイレ介助、高齢者が筋力を低下させないように体操を行いました。また、避難所に日中残っている高齢者には状態が変わっていないか、毎日声かけを行いました。

Q2:今回の派遣で学んだことは――

池田:災害が発生すると、数日間、避難者は緊張が持続するため、自分の体調不良に気づかず、悪化してしまうことがあります。長期化する避難所生活のため、避難者はさまざまなストレスを抱えていたと思いますが、体調不良や不安な気持ちを自分から言い出せない方がほとんどでした。保健師は次々に変化していく避難者の健康問題を予測しながら対応し、その訴えを促し、気づくことが

持ち出せるようにしておくことが大切だと思います。

市では5月24日、池田保健師による報告会を市保健福祉部の職員等を対象に実施。派遣先での経験を市の災害時対策に反映できるよう職員間で情報を共有しました。

下妻中学校の 養護教諭派遣へ 児童生徒の心のケア

熊本地震で被災した小中学校でカウンセリング等による児童生徒の心のケアに当たるため、嘉島町立嘉島西小学校に派遣される下妻中学校の養護教諭、高野朋子さん(写真・中央)の激励式を4月17日、下妻市役所で行いました。派遣期間は、5月22日～6月1日の11日間です。



有料広告欄

イオンモール下妻で期日前投票ができます

7月10日執行予定の参議院議員通常選挙から、投票しやすい環境づくりと若年層の投票率向上を目指して、新たに「イオンモール下妻」に期日前投票所を設置します。

身近な商業施設で期日前投票ができるようになります。ぜひご利用ください。

問い合わせ 下妻市選挙管理委員会(市総務課内)
☎43-2111(代)

社会福祉の増進

地域の身近な相談相手 民生委員・児童委員の活動PR

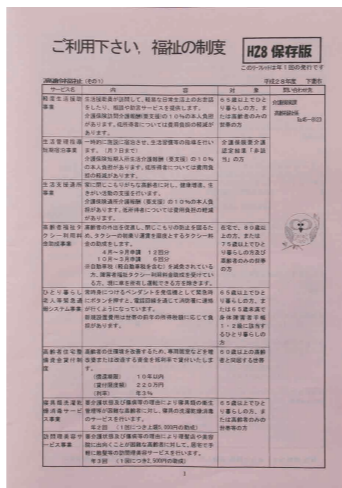
5月12日に始まった「民生委員・児童委員の日」活動強化週間で、下妻市民生委員・児童委員協議会は5月12日～17日の6日間、市内5カ所のスーパーや道の駅しもつまで、地域福祉に努める委員の活動をPRしました。



買い物客に活動をPRする民生委員・児童委員(5月17日、カスミフードスクエア下妻ふるさわ店で)

「広げよう 地域に根ざした思いやり」をテーマにした街頭キャンペーンでは、買い物客に啓発チラシを配りながら、「心配ごとがあったらひとりで悩まず相談して」と呼び掛けました。啓発チラシを受け取った方からは「民生委員・児童委員の活動を知ることができた」「民生委員さんにお世話になり、楽に介護ができるようになった」などの声が寄せられました。

子育てや介護、ひとり暮らしでの悩みなどがありましたら、お気軽に各地域の民生委員・児童委員に相談してください。お住まいの地区の民生委員・児童委員は、市福祉課発行の「ご利用ください、福祉の制度・H28保存版」=写真右=でご確認ください。



問い合わせ 福祉課 ☎43-8249

子どもの居場所づくり

地域と一緒に、食卓の団らん「ほべたん食堂」 毎月第3木曜日・午後5時～7時開店

食を通じて、子どもたちに温かな夕食の団らんを提供しようと、いばらきコープ生活協同組合と下妻市社会福祉協議会が連携して運営する「ほべたん食堂」が5月19日、関東鉄道常総線下妻駅の駅前広場(西口)からほど近いコミュニティーカフェ「ぶらっとほーむ」内にオープンしました。

オープニングセレモニーで、いばらきコープの鶴長義二専務理事は「お父さん、お母さんが忙しく働く中で、子どもたちが一人で食事をすることが増えている。笑顔のあるたまり場、居場所になってほしい」とあいさつ。いばらきコープによると、名称の「ほべたん」はコープネットグループのマスコットキャラクターで、コープが子ども食堂を実施するのは今回が全国で初めてという。

オープン初日のメニューは、ローズポークの生姜焼きやメンチカツ、新鮮キャベツとコーンのサラダ、ひじきの煮もの、新たまねぎとワカメのみそ汁などボリュームたっぷり。JA常総ひかりや全農いばらきから無償で食材の提供を受け、いばらきコープの女性組合員たちが調理。親子連れや高校生、地域住民が夕食の団らんを楽しみました=写真。



市内から親子3人で訪れた市村有美さんは、働きながら2人を子育てするお母さん。「仕事をして帰宅してから時間に追われて夕食を作るのを考えると、(ほべたん食堂で)栄養やバランスがよい食事がとれてありがたい。地域の方とも交流できて、地元の情報が聞けてよかった」と話し、清十郎くん(小4)と紗彩ちゃん(小1)は「創作寿司の鯉のぼりを作って食べたのが楽しかった。また来たい」と笑顔を見せていました。

「ほべたん食堂」は、毎月第3木曜日の午後5時～7時に開店。1食子ども100円、大人300円。今後、大学生や高校生による学習支援も計画されています。